

カトリック高幡教会における葬儀のご案内

◇ カトリック教会の葬儀

カトリック信者の葬儀は、原則として所属する教会にて葬儀ミサとして行われます。洗礼を受けているご家族が亡くなられたときは、必ず教会にご連絡下さい。

葬儀についてあらかじめお知りになりたい方は、司祭、又は葬儀係にご相談下さい。

◇ 死の準備

病気や事故などで瀕死の状態におられると判断された時には所属している教会、もしくは近くの教会の司祭に連絡してください。

ご聖体、病者の塗油、ゆるしの秘跡、相談などを依頼できます。

◇ 亡くなられたら

信者が亡くなられた場合、その方の所属教会の司祭に連絡し、指示を仰いでください。

また、ご自宅などで亡くなられた場合、医師の死亡診断が必要です。

かかりつけ医師に連絡してください。死亡診断書を受け取る前にご遺体を教会などに搬送しないようにしてください。

◇ 葬儀社について

葬儀社は自由に決めることができますが、高幡教会で依頼している葬儀社もありますのでご相談ください。

◇ 連絡先

カトリック高幡教会管理者司祭 ホルヘ・マヌエル・マシアス・ラミレス神父

電話 042-592-2463 E-mail ; cctakahata●gmail.com (●を@に変えてお使いください)

◇ カトリック高幡教会

小教区管理者 ホルヘ・マヌエル・マシアス・ラミレス神父

住所 〒191-0042 東京都日野市程久保 4-7-1



「サンピエトロのピエタ」

カトリックの葬儀の意味

カトリックの葬儀については『カトリック儀式書葬儀』（1993 カトリック中央協議会）にまとめられています。これは第二バチカン公会議が 1963 年の典礼憲章で「葬儀はキリスト者（=キリスト教信者、具体的には洗礼を受けた者）の死の特質が復活につながるものであることをはっきり表現」するよう改革したことを受けて作られた『ローマ儀式書葬儀』を日本の特色、事情に合わせて作成されたもので、1971 年に初版が出され、1993 年に増補改訂版が出されました。

以前は、死は裁きの時であるとして恐れを過度に強調しており、罪が赦され天国に入れるよう願ったもので、^{しゃとうしき}赦^し禱^し式^がが営まれていました。改訂では罪の赦しより、復活の信仰が強調されています。

キリストは、ご自分の死（十字架刑に処せられたことを示す）によって人間を罪から解放され、いのちによみがえられて（処刑後 3 日後に復活したことを示す）勝利を獲得されたのであるから、キリスト者の死および葬儀は、復活の恵みを皆で、おそらく死者を含めて、確認し感謝すること、キリストによって死者を神のみ手に委ね、キリストの再臨と死者の復活を待ち望んで祈ること、と新しい意味づけがされています。

同時に、神ご自身が、悲しみのうちにある遺族の力、励ましになってくださるよう祈り、教会に連なるキリスト者が互いに（死者を含め）復活に結ばれるという信仰を新たにすると位置づけられています。

今回の改訂により、信仰の妨げとならないかぎり、日本の事情への対応が積極的になされており、「通夜」という表現の採用にとどまらず仮通夜や自宅での通夜にも対応し、告別において献花だけでなく焼香も採用するなどとしています。儀式もラテン語ではなく日本語（口語）で行われるようになっていきますし、ミサを除いて司祭だけでなく助祭、信徒も司式（式を司ること）ができるようになりました。

葬儀式

葬儀には「葬儀ミサ」によるもの、「ことばの祭儀」によるものの 2 通りあります。信者でない人の葬儀あるいは参列者に信者でない人がほとんどの場合、事情によりミサが行えないときには「ことばの祭儀」が営まれます。「ことばの祭儀」とは「葬儀ミサ」から「感謝の典礼」といわれるミサ聖祭（聖体拝領）の部分を除外したものです。

そのとき、イエスは亡くなったラザロ姉妹、マルタに言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」（新約聖書 ヨハネ 11 章 25）